

序

最近の医学の進歩は診断の分野にも専門化、細分化をもたらし、扱う情報の量は膨大なものになっております。とくにマンモス化した内科領域では、その全域にわたって専門医レベルの知識をもつことは不可能ともいわれております。したがって、実際の診断の場に臨んでも病歴から検査データまでのさまざまな情報に対して、とかく戸惑いを感じることも多いかと思われれます。しかし、現実には1人の患者を前にしたとき、どこに着眼し、なにを診ていくかは、おのずと決まっているに違いありません。その要所を各専門の先生方に解説していただいていたのが、本誌の「診断のポイント」欄でした。

本特集「これだけは知っておきたい 診断のポイント」は、過去8年にわたって連載され、好評を博してきたこれらの診断のポイントに全面改訂を加え、再編成したものです。

再編成に当たっては、まず各論文を疾患系統別に大分類し、さらに、実地診療上のさまざまな視野から、細分類を試みました。再編成に当たって改めて感じたことは、広い内科領域の診断のすべてを網羅しているわけではないにしても、各項目とも、実地診療における切実なテーマとして厳選されていたことです。

診察室で患者を前に、ある症状や訴えに困惑するとき、また検査データの変動の意味するところを手っとり早く知りたいときなど、本書をひもといいただければ、必ずや臨床医の方がたの参考になるものと思います。

1972 年 7 月 編 者